

平成22年度

十勝シーニックバイウェイ
十勝平野・山麓ルート活動報告

1. ルート運営活動計画の進捗状況
2. 活動団体の活動状況及び課題
3. ルート運営活動計画の推進体制の状況及び課題
4. ルート運営行政連絡会議の取組状況及び課題
5. 平成21年度活動報告への助言に対する状況報告

1. ルート運営活動計画の進捗状況

ルートの名称: 十勝シーニックバイウエイ 十勝平野・山麓ルート	報告者: 十勝シーニックバイウエイ 十勝平野・山麓ルート代表 三井 福成	報告年月: 2011/3/31
---------------------------------	--------------------------------------	-----------------

	ルート(エリア)運営活動計画方針	ルート(エリア)運営活動計画活動内容	No	活動名	主催	活動実施日	参加人数	活動状況 資料番号	総括
景観	地域の景観資源を守ろう、活かそう	歴史的な景観資源を発掘し継承する		—	—	—	—	—	これまででは、連携花壇などを通して、地域間の連携基盤づくりに尽力してきたが、平成21年度に取りまとめた地域資源、豊かな道路景観を損なう要因を洗い出す調査結果を基に、不要看板の有効活用として、ルートのシンボルを掲げる「ルート看板」の設置を行うなど、景観形成に向けた新しい一歩を踏み出した。 また、昨年度の引き続き、十勝シーニックバイウェイとしての連携事業であるイエローリボンプロジェクトにおいても、ひまわり植栽の面積を広め、より大きく貢献することができた。
		十勝の山麓・平野に広がる美しい田園景観を活かす		—	—	—	—	—	
	特色溢れる景観を創出しよう	景観の見せ場を創る		—	—	—	—	—	
		沿道を花と緑で彩る	1	十勝シーニックバイウェイ連携事業 ：イエローリボンプロジェクト	とかちイエローリボンプロジェクト実行委員会	平成22年8月17日 平成22年11月17日	30人以上	-	
	沿道景観を取り巻く環境向上に向けた取り組み	道路工作物の景観を整える	2	景観資源と地域資源を守ろう・活かそう ～不要看板の活用によるルート看板の設置～	景観形成分科会	平成22年8月17日 平成22年11月17日	10人	A - 1	
		手入れの行き届いた沿道景観をつくる	2	景観資源と地域資源を守ろう・活かそう ～不要看板の活用によるルート看板の設置～	景観形成分科会	平成22年8月17日 平成22年11月17日	10人	A - 1	
			3	6町連携活動(シーニック花壇)	鹿追商工会	平成22年5月1日～ 平成22年11月30日	30人以上	—	
			地域	地域が一体となった情報発信の検討	広域的な地域情報発信の連携	4	十勝シーニックバイウェイ連携事業 ：シーニックカフェスタンプラリー	南十勝夢街道 ：幕別町商工会	
21	ルートマップの作成	観光振興分科会				平成22年5月7日 平成22年6月17日 平成22年8月2日	10人	A - 2	
沿道での情報発信による案内誘導の仕組みづくり	2	景観資源と地域資源を守ろう・活かそう ～不要看板の活用によるルート看板の設置～			景観形成分科会	平成22年8月17日 平成22年11月17日	10人	—	
	22	道東道看板調査			鹿追町商工会 鹿追町議会	平成22年6月28日	10人	—	
地域のシーニック運営への意識を高めよう	持続的なルート運営の為の運営体制の検討	23		十勝シーニックバイウェイ連携事業 ：大雪・富良野ルートの視察研修会	鹿追町商工会	平成22年9月22日	30人以上	—	
	地域にシーニックを浸透させよう	5		十勝シーニックバイウェイ連携フォーラム	十勝シーニックバイウェイ連携フォーラム実行委員会	平成22年11月30日	200人	—	
観光	地域の農・食・産品を繋げて活かそう	地場産品・食をPRする		—	—	—	—	—	地域に存する潜在的な資源を活用する取り組みとして、馬でのトレッキングコース(馬の道)の造成や、十勝ならではの体験型観光によるモニターツアーの実施を行った。特に、馬の道については、ルートの独自性において優位な取り組みと言える。 一方で、観光を事業として成り立たせる、商品化するためには、単発のモニターツアー等だけでなく、具体的な商品作り、広報戦略、事業スケジュールなどを詰めていく必要がある。専門家等を招いた形での有意義なワークショップ・研修会を活用するなど、さらなる広がりが重要と言える。
		農業を活かす		—	—	—	—	—	
		個店を活かす仕組みづくり		—	—	—	—	—	
	提案型観光地づくりの検討	野外活動型滞在観光地づくり	9	アウトドアを中心としたモニターツアーの実施	観光振興分科会	平成22年8月17日 平成22年9月25～26日	8～10人	—	
			7	馬の道プロジェクト ～実地調査と案内看板の設置～	地域づくり分科会	平成22年8月17日 平成22年10月	10人	A - 3	
		健康保養型滞在観光地づくり	6	十勝における地域住民との交流・体験型観光プロジェクトに関する調査研究	観光振興分科会	平成21年8月25日 平成21年11月27日	8～10人	—	
	地域資源の発見と共有に取り組もう	地域資源の発見と共有	6	十勝における地域住民との交流・体験型観光プロジェクトに関する調査研究	観光振興分科会	平成21年8月25日 平成21年11月27日	8～10人	—	

十勝平野・山麓ルート

TOKACHI Scenic Byway / Tokachiheiya Sanroku Route

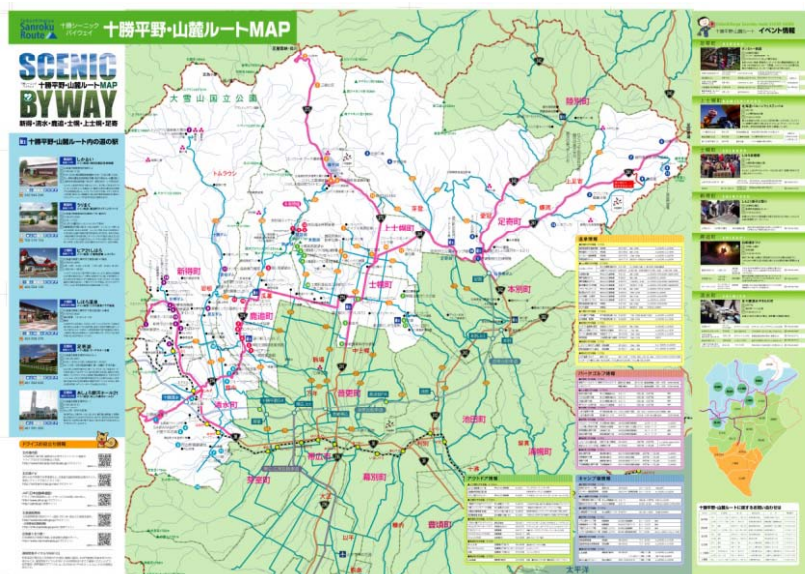
景観資源と地域資源を守ろう・活かそう
～不要看板の活用によるルート看板の設置～

- 【概要】 当ルートには不用看板が多数存在している。これまでの看板の場所・数についての調査を踏まえ、取り除くだけでなく、有効に活用することを目的に、シーニックバイウェイと新たに作成したルートロゴマークを入れた、PR看板への掛け替えを行った。
- 【日時】 （景観形成分科会）平成22年8月17日・平成22年11月17日
（設置）平成22年12月17日（新得町）・平成23年1月11日（足寄町）
- 【場所】 新得町国道38号沿い（ヨークシャーファーム付近）・足寄町国道241号沿い
- 【主催】 景観形成分科会
- 【参加人数】 10人



ルートマップの作成

- 【概要】 沿道景観の調査や、観光資源の見直し（＝地域の再発見）を続けてくる中で、ルート内に多くの資源が存在し、その潜在的な魅力が十分に情報として伝わっていないことも把握されてきた。そこで、地域資源の整理と情報発信として、ルート内を幅広く網羅したマップを作成し、40,000部を発行・配布した。
- 【日時】 （観光振興形成分科会）平成22年5月7日・6月17日・8月2日
（配布開始）平成22年11月
- 【場所】 （配布）十勝管内道の駅／十勝管内SA・PA／十勝管内JR駅／とかち帯広空港／フェリーターミナル／札幌駅 等
- 【主催】 観光振興分科会
- 【参加人数】 10人



十勝平野・山麓ルート

TOKACHI Scenic Byway / Tokachiheiya Sanroku Route

馬の道プロジェクト ～実地調査と案内看板の設置～

【概要】 地域資源（自然と既存の取り組みの一体化）として十勝平野・山麓ルートでは「馬の道」に関する調査を平成21年度から実施している。今年度は、現地踏査の継続と共に、一步進んで「誘導案内標識」の作成について、環境的な側面を取り入れつつ、どのような看板がふさわしいのか・看板に記載する内容などについて、実際に見本をつくりながら検討・設置した。

【日時】 （景観形成分科会）平成22年8月17日・平成22年10月
（設置）平成22年10月 ※10箇所順次設置

【場所】 瓜幕（ラディングパーク）からヌプカの里

【主催】 地域づくり分科会

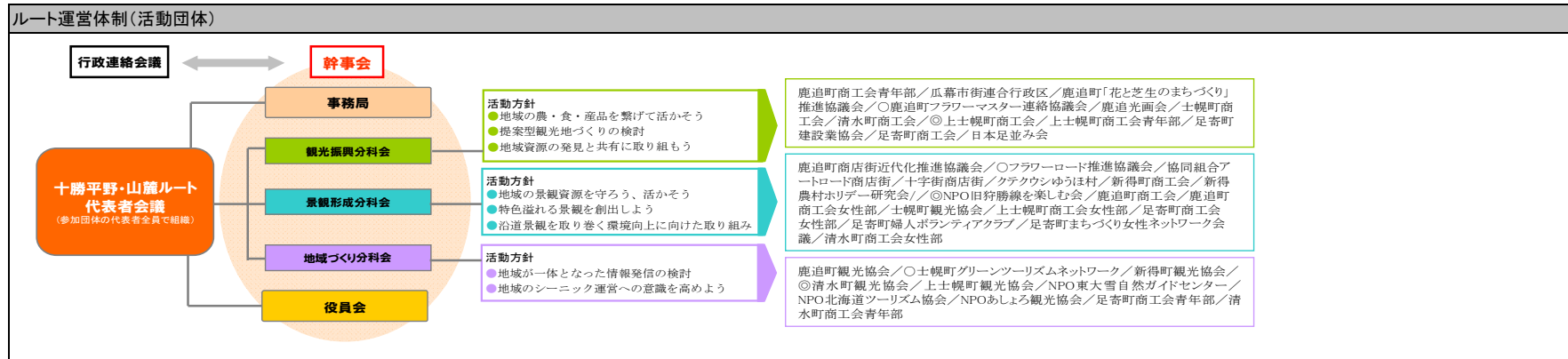
【参加人数】 10人



3. ルート運営活動計画の推進体制の状況及び課題

ルート名称:十勝シーニックバイウェイ 十勝平野・山麓ル	報告者:十勝シーニックバイウェイ 十勝平野・山麓ルート代表 三井 福成	報告年月:2011/3/31
-----------------------------	-------------------------------------	----------------

活動団体
清水町観光協会／清水町商工会／清水町商工会青年部／清水町商工会女性部／新得町観光協会／新得町商工会／新得農村ホリデー研究会／“特定営利活動法人旧狩勝線を楽しむ会”／土幌町商工会／土幌町グリーン・ツーリズムネットワーク／土幌町観光協会／上士幌町商工会／上士幌町観光協会／上士幌町商工会青年部／上士幌町商工会女性部／“NPO法人ひがし大雪自然ガイドセンター”／鹿追町観光協会／鹿追町商工会／鹿追町商工会青年部／鹿追町商工会女性部／鹿追町商店街近代化推進協議会／瓜幕市街連合行政区／“鹿追町花と芝生の町づくり推進協議会”／フラワーマスター連絡協議会／フラワーロード推進協議会／協同組合アートロード商店街／十字街商店会／クテクウシゆうほ村／鹿追光画会／“NPO法人北海道ツーリズム協会”／足寄町商工会／足寄町商工会青年部／足寄町商工会女性部／NPOあしよ観光協会／足寄町建設業協会／日本足並み会／足寄町まちづくり女性ネットワーク会議／足寄町婦人ボランティアクラブ



	基本方針	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	備考
	ルート運営代表者会議		● 5/27											連携花壇の継続、不要看板のさらなる活用馬の道を介した各町との連携、事業開発などに取り組んでいく
	幹事会	<未開催>												
	分科会		●5/27 (観光)	●6/17 (観光)		●8/2・17 (観光・地域・景観)			●11/17 (景観)					
	3ルート連携代表者会議		●4/14		●7/7					●12/17				

ルート名称:十勝シーニックバイウェイ 十勝平野・山麓ル	報告者:帯広開発建設部	報告年月:2011/03/31
-----------------------------	-------------	-----------------

	基本方針	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	備考
	行政連絡会議の実施			● 6/16								● 2/1		標識集約化に向け、ルート関係者と連携し検討を進めていく

4. ルート運営行政連絡会議の取組状況及び課題

ルート名称:十勝シーニックバイウエイ 十勝平野・山麓ルート	報告者:帯広開発建設部	報告年月:2010/3/31
-------------------------------	-------------	----------------

	ルート(エリア)運営活動計画方針	平成22年度の活動内容	活動実施日	実施機関	成果及び課題	総括	活動No
景観	特色溢れる景観を創出しよう	十勝シーニックバイウエイ連携事業 :イエローリボンプロジェクト	平成22年8月17日 平成22年11月17日	帯広開発建設部ほか 各自治体	行政連絡会議構成員が積極的に、実施箇所検討及び種植えに参加することが出来た。課題は、さらなる実施箇所検討及び参加となるが、子供の参加を増やすようなPRを検討する。	十勝シーニックバイウエイはもとより、シーニックバイウエイ全体の取り組み、PRのために、ルートと行政が連携した取り組みは今後必要である。	1
地域づくり	地域が一体となった情報発信の検討	十勝シーニックバイウエイ 共通補助標識の検討	平成22年12月～ 平成23年2月	帯広開発建設部	道路利用者に対して案内機能の向上を目的とし、景観及び地域資源の保全に配慮しながら、十勝シーニックバイウエイ共通の補助標識(本標識の補足)設置を検討した。3ルートでの案内場所、設置場所、デザインなどの検討を行い、今後、検討しながら設置を進めていくこととしている。設置希望箇所が国道以外もあるため、今後は関係機関で連携しながら進めていくこととしている。		24
		月間スケジュール表の情報共有化	平成22年7月～平成 23年3月	帯広開発建設部	3ルート活動の情報一元化及び定期的な共有(メール)が出来た。課題は、ルート情報のみをメール共有化したため、各自治体の情報・要望を広く配信する。		25
観光	地域資源の発見と共有に取り組もう	地域資源の発見と共有	平成22年8月17日 平成22年9月25～ 26日	帯広開発建設部	一般市民からの要望を伺うなど十勝における地域住民との交流・体験型観光プロジェクトに関する調査研究に参加し、地域資源の発見と共有に努めた。その中で、学校関係者から頂いた意見、「シーニックが判りにくい、子供達への体験希望」を受け、学校シーニックバイウエイ実施(別ルート)のきっかけとなった。今後、子供をキーワードとして展開する。		6

5. 平成20年度活動報告への助言に対する状況報告

※十勝平野・山麓ルートは、平成21年度に指定ルートの認定を受けているため、昨年度の活動報告に対する助言はない。ここでは、参考までに指定ルート認定の際にいただいた意見を記載する。

ルート名称: 十勝シーニックバイウェイ 十勝平野・山麓ルート	報告者: 十勝シーニックバイウェイ 十勝平野・山麓ルート代表 三井 福成	報告年月: 2011/3/31
--------------------------------	--------------------------------------	-----------------

平成21年度活動報告への助言	平成22年度 状況報告	備考
(ルート審査員からの助言) シーニックバイウェイ北海道の持続的推進を図るため、引き続き情報発信やPR活動等によるブランドの形成、地域への浸透に努めるとともに、地域ビジネスの展開や人材の育成等によるルート活動の基盤強化や幅広い関係機関による支援体制の強化に取り組まれない。また、これまでの活動成果の評価を試みるなど、内外の環境を意識しながら、今後の展開の方向性について検討されたい。	●情報発信について 候補ルート時代より、地域資源の発掘を続けてきたが、これを基盤としてルートマップという形に落とし込めたこと、あるいは不要看板を活用してルートのPRを可能としたことの成果は大きい。今後は、これまで各年度や調査によって別々に存在している写真等の資源情報を整理し直し、体系的な管理を行うことで、スムーズな情報発信、より地域の踏み込んだ形での情報提供が行えるようにする必要がある。 ●ブランドの形成・地域ビジネスについて 昨年度来、当ルートの特徴づける取り組みとして「馬の道プロジェクト」を継続的にやってきた。十勝の魅力を活かした取り組みであるだけでなく、総延長125kmを目指す馬の道は、各町の連携が欠かせないものであり、体験・宿泊・景観・寄り道という極めてシーニックらしい理想的な形でのブランド形成と成り得る取り組みである。一部看板も取り付けられたことから、ビジネス化(商品化)に向けた試験的取り組みを進めていく必要がある。 ●人材育成とルート基盤強化について 人材育成にはルートの組織(運営代表者会議)の内部でのもの、外部におけるそれに分けられると考える。内部においては、地域の若い年代が、徐々にルートに対してより積極的に関わってくる機会が増え、個人の行動力によって、地域に新しい動きをもたらし始めてきたところである。一方で、外部から新しい人材を取り込むこと、あるいは連携することに関しては、未だ明確な成果を得ていない。これには、「シーニックの実態」が十分に地域の人に伝わっていないことが根本的な原因と考えられる。今後は、ルート活動の報告や、地域の魅力紹介などで構成されるコミュニティ誌、あるいは「かわら版」などのツールを検討し、地域浸透に努めることが肝要であると考ええる。	

ルート名称: 十勝シーニックバイウェイ 十勝平野・山麓ルート	報告者: 帯広開発建設部	報告年月: 2011/1/31
--------------------------------	--------------	-----------------

平成21年度活動報告への助言	平成22年度 状況報告	備考
(ルート審査員からの助言) シーニックバイウェイ北海道の持続的推進を図るため、引き続き情報発信やPR活動等によるブランドの形成、地域への浸透に努めるとともに、地域ビジネスの展開や人材の育成等によるルート活動の基盤強化や幅広い関係機関による支援体制の強化に取り組まれない。また、これまでの活動成果の評価を試みるなど、内外の環境を意識しながら、今後の展開の方向性について検討されたい。	体験ツアー研究やマップ作成など、地域の浸透に貢献している。また、意見交換会実施による、一般市民からの要望を伺うなど、幅広い活動を行っている。さらに、十勝シーニックバイウェイの他2ルートを強力に牽引する役割を果たしており、来年度の道東道全通に向けは北海道においても中心的な存在と成りうる。	